

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 日米琉諮問委員会 (代表会合第121回～140回) (7)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米琉諮問委員会, 審議概要, 勧告41, 土地区画整理事業, 土地改良事業, 琉球開発金融公社, 琉球政府移管, 調査団, 鈴木日銀監事, 金融調査団, 琉球開発公社, 沖縄の金融機構 キーワード (En): Recommendations 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43737

水一三八回

総理府

秘 252

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政專外外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長
儀儀
總人電厚社
國資參調研企
長長
價價
移移
長長

總電符 (I A) 47024
69年 9月 16日 11時 50分 ナハ 主管
69年 9月 16日 14時 03分 本省 着 米北
外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

諮問委員会 (連)

ネ74号 平 (秘扱)

16日、ネ138回会合

1. ショットより、プログレスリポートの英文と3代表の署名書簡を付し高野弁務官に送付することと提案し承認
2. ショットより、台湾出渡の米琉側スタッフは今週末出発する予定なる旨を述べたので本便より、与方から直接在台北大使館にしかるべく連絡しておくべき旨述べた。

(3)

参地中東
長 北東西
参北北保
中
南
長 参西東洋
西東
参書近ア
長 次總經國万
長 参實統
長 参政技二
長 協長 國一理
参参協機
長 国 参政經科
長 軍社專
長 参道内外
文長 一二

アメリカ局長
参事官
北米才一課長

公 信 第 7 5 号
昭和 4 4 年 9 月 1 6 日

外務大臣臨時代理
佐 藤 榮 作 殿

日米琉諮問委員会日本政府代表
高 瀬 侍 殿

沖縄におけるへき地の医療事情調査について

今般、8月27日より同月31日までの間、へき地の医療事情調査に従事した当代表部長門調査官が提出した同調査の報告書を別添のとおり送付する。

付 属 添 付
本信写送付先 総理府総務長官
厚生大臣

要処理
首席参事官
南才
渉外調査
漁業
航空
科学協力
連絡調整
調査
力子
局庶務

44. 9. 20
受

総 合 所 見

1 へき地医療(対策)の現状について

(1) 琉球政府のへき地医療対策は、本土留学の医学生の帰琉対策、政府公務員医師のへき地診療所勤務等の面において積極的姿勢を欠くうらみはあるが、現段階における琉球政府の能力を勘案し、また市町村との比較においては、一応努力のあとがうかがえる。

(2) これに対して、市町村については、ごく少数の町村を除き、無医地区を自主的に解消しようとする意欲に欠けていると見受けられた。

医療問題に積極的な取り組みをみせている町村においては、自ら診療所を開設し、あるいは政府立診療所(単身赴任の医師が多い)にメイドを配置し、若干の家具什器を提供する等の措置を講じている例がある一方、無関心ないしは冷淡な市町村の例としては、政府立診療所の運営は、もつぱら政府の責任であるとして医師が定着するような便宜供与措置すら講じない例が見受けられた。

本土においては、へき地診療所はもつぱら市町村が開設・運営に当たっているが、沖縄においては、責任を琉球政府のみに転嫁して、自らの努力で無医地区を解消しよ

うとする姿勢は見られなかつた。

(3) さらに、住民側の態度についてみると、二つの問題を指摘することができる。

第一点は、患者の受診態度である。すなわち、軽症の段階では受診せず、容態が悪化してからはじめて医師の往診を求める傾向があり、しかも、深夜・風雨時をとわず安易に往診を求める例が多い。

第二点としては、住民側に医師に対し生活上の便益を供与しようとする姿勢の欠如である。すなわち、診療所周辺の草刈等の労務提供、日常生活物資の購入等の面でトラブルの生じた例が報告されている。

この種事例が本土派遣医師の定着率を低める原因となっているので、特に地元市町村、住民の理解と協力方を促す必要がある。

2 ヘリコプター等による巡回診療体制の確立について

へき地診療所に医師を駐在させる方法による無医地区の解消対策には、処遇改善をもつてしても限度があり、また、受診患者数が少ないため効率的でもない。したがって巡回診療方式の採用が考えられるが、沖縄の地理的特性（島しよの多いこと

リーフが多く、かつ、潮の干満の差が大であること)を考慮に入れた場合、本土において実施されている巡回診療車(船)によるほか、ヘリコプター、軽飛行機による巡回診療を採用する必要がある。今回の調査、及び関係者との討議の結果、ヘリコプター2機、軽飛行機1機、快速艇3隻は最少限必要であると認められた。

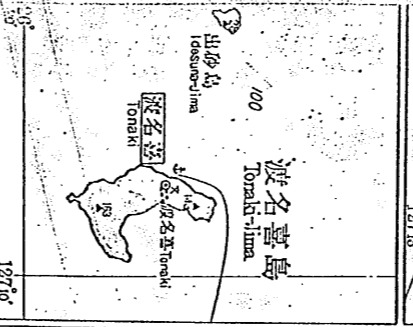
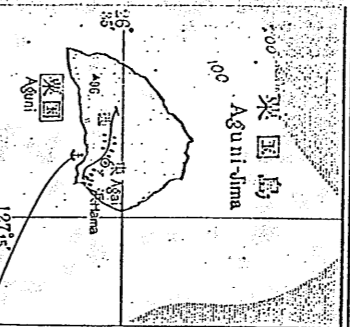
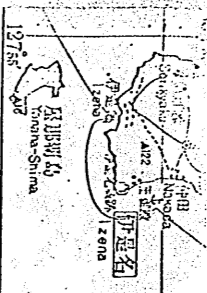
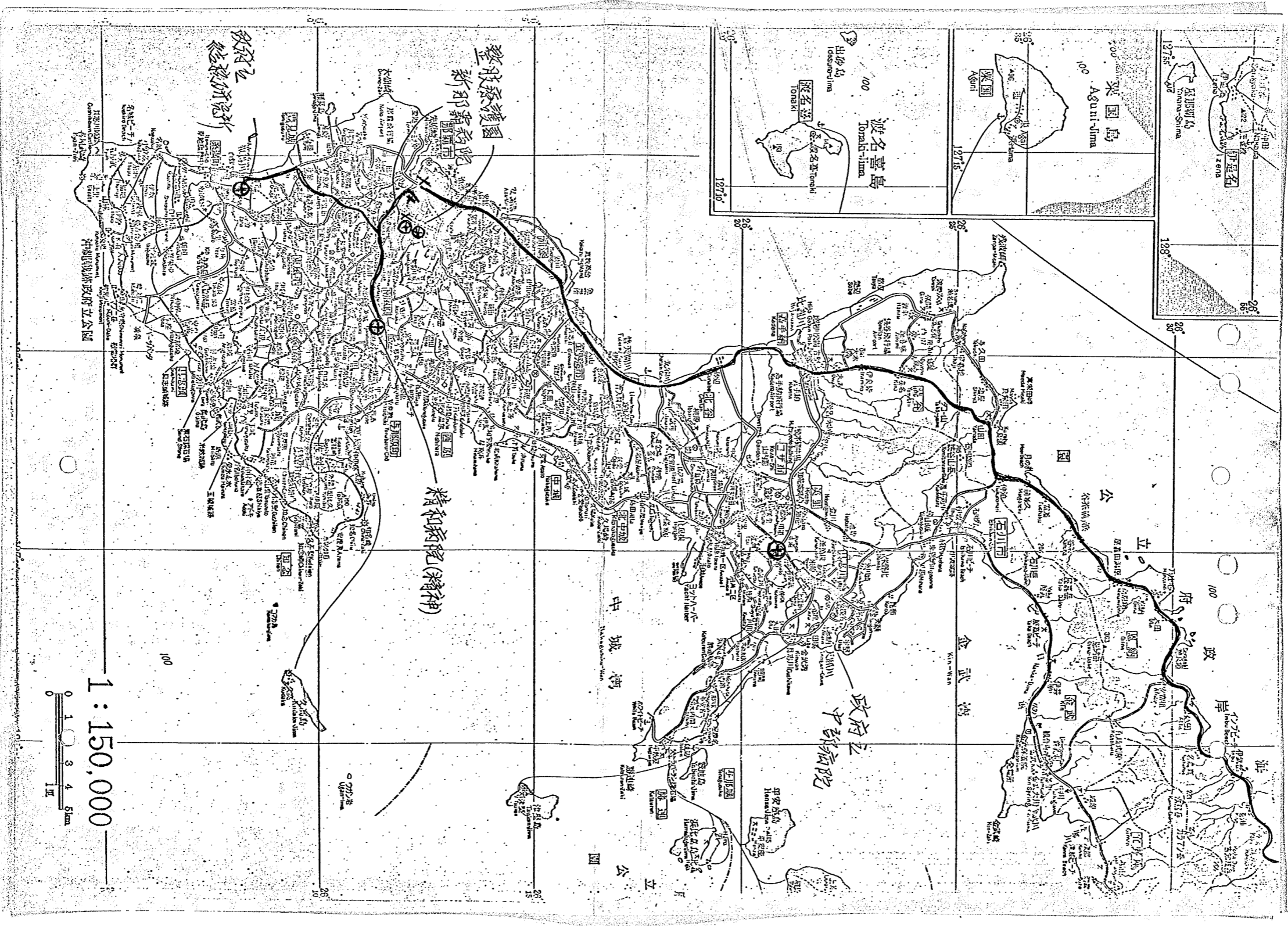
3 その他

地域の生活・福祉水準は各種社会公共資本の整備と相まって向上してゆくものであり、道路、港湾、通信施設の整備が無医地区の条件を解消する大きなモメントともなるものであることにかんがみ、早急にこれらの施設を整備する必要がある。

箕輪議夏日程表

随伴 榊村仁昭(会生協医務局)

月 日	時刻	摘 要	宿 泊
8/22 (金)	12.00	那覇着 JAL 905便	東京ホテル
	13.30	日本政府水産庁長官事務所訪問 琉球政府行政主席訪問	
23 (土)	19.00 ~	日本政府水産庁長官事務所(於那覇市)	東京ホテル
	8.00 ~ 10.00	琉球政府厚生局長と懇談 高橋代表	
	11.00 ~ 12.00	中部病院 (小林保也同行)	
	12.00 ~ 13.00	風食 (於 マートバグナークラブ)	
	15.00 ~	沖縄医師会と懇談 沖縄医師会支佐々会	
24 (日)	13.00 ~	名護 ~ (小林保也同行)	名護双葉荘
25 (月)	9.00 ~	聖診療所 (同上)	東京ホテル
	14.00 ~	名護病院, 名護保健所	
	9.00 ~ 10.00	新那覇病院建設事務所 (小林保也)	
	10.00 ~ 11.00	若皮膚療護園 (同行)	
	11.00 ~ 12.00	沖縄赤十字病院	
26 (火)	13.00 ~ 14.00	精和病院 (長内調査官・小林)	東京ホテル
	14.40 ~	琉球結核研究所 (保也 同行)	
27 (水)		那覇 ← → 冬春島 (長内調査官)	東京ホテル
28 (木)	8.00 ~ 9.20	那覇 → 石垣 (SWAL 61便)	宮平観光ホテル
		八重山病院, 八重山保健所, 竹富島 (同上)	
29 (金)		医療研究所 (同上)	宮平観光ホテル
30 (土)	11.05 ~ 11.35	石垣 → 宮古 (SWAL 82便)	(同上)
		伊波島, 宮古病院, 宮古保健所, 宮古回診園	宮古観光ホテル
31 (日)	13.00 ~ 13.50	宮古 → 那覇 (SWAL 54便)	東京ホテル
9/1 (月)	12.50	那覇着 JAL 906便 (同上)	(同上)



整肢藤護國
新那那新那市

新那那新那市
新那那新那市

新那那新那市
新那那新那市

精和病院(精神)

中城橋

政府之
中城病院

1 : 150,000

0 1 2 3 4 5 km

1 厘

全図

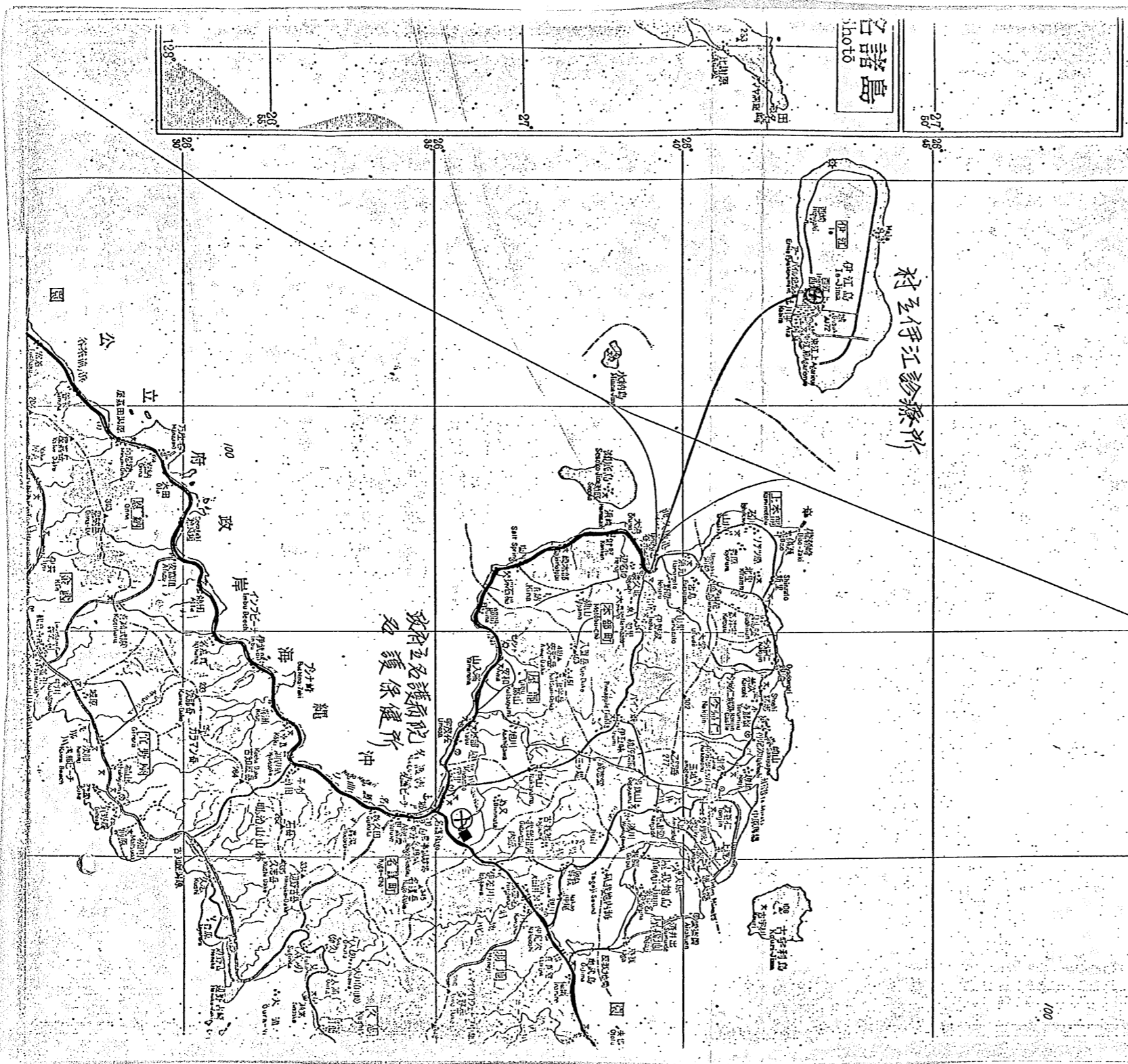
127°45'

127°50'

127°55'

128°

沖縄群島 OKINAWA-GUNTO



村立伊江診療所

政府立名護病院
名護保健所

立公

128°
26'
27'
28'

名諸島
photo

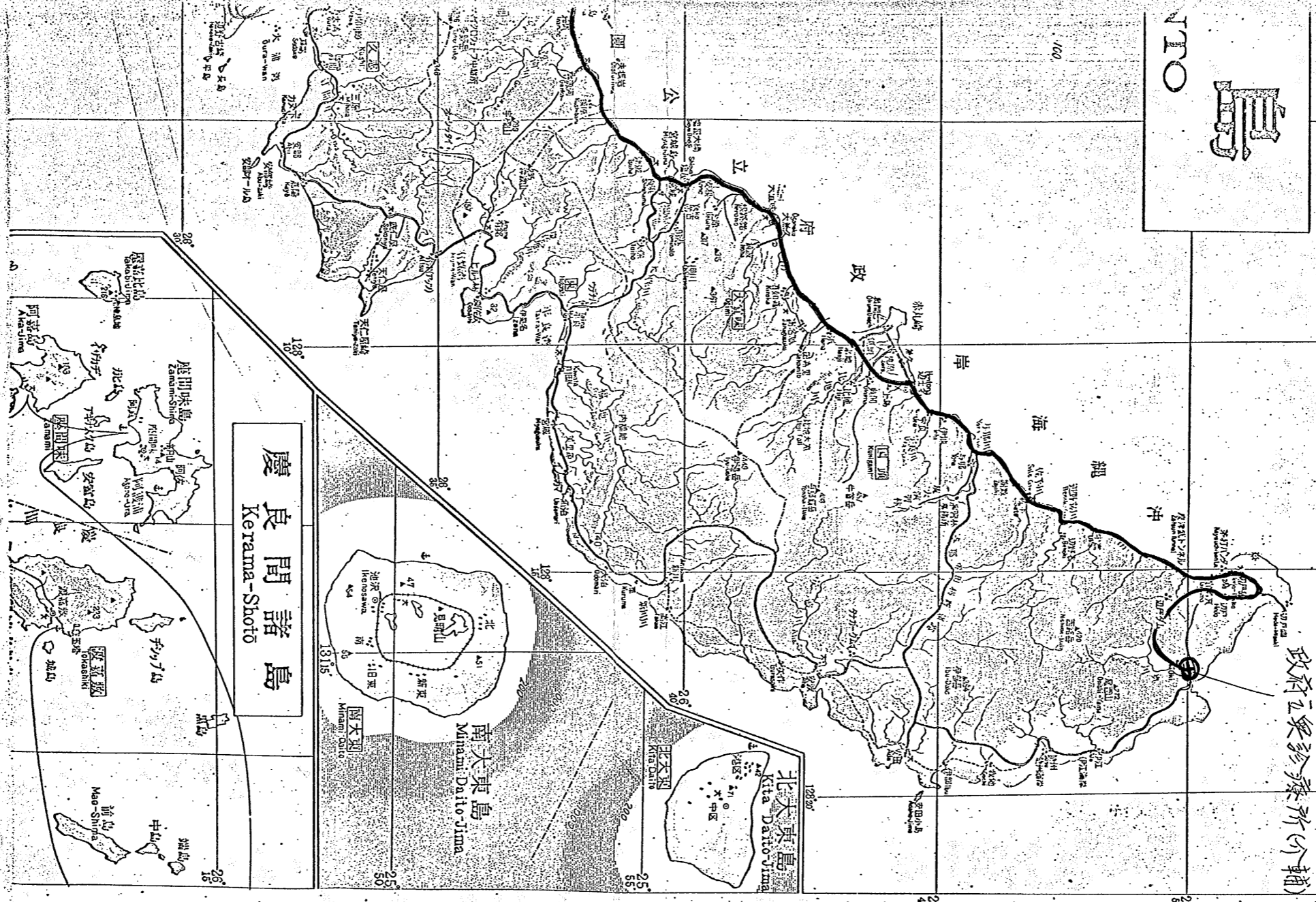
27°
45'
46'

100

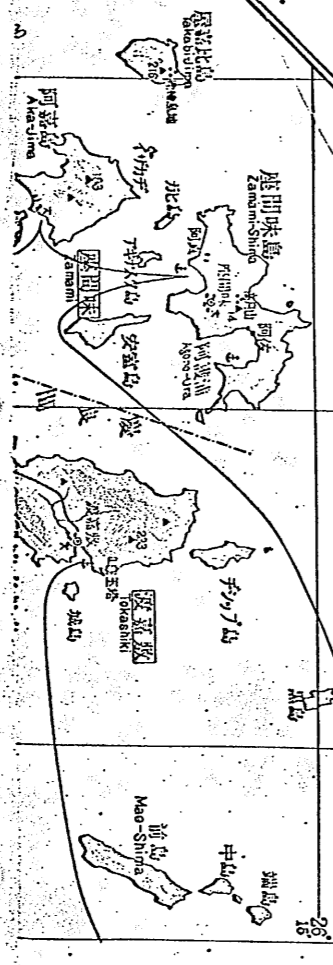
島

110

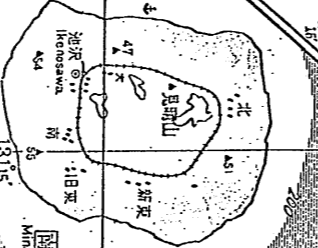
政府正衆診療所(介輔)



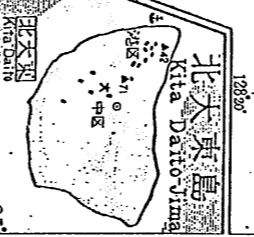
慶良間諸島 Kerama-Shoto



南大東島 Minami-Daito-jima



北大東島 Kita-Daito-jima



1286° 1286° 1286°

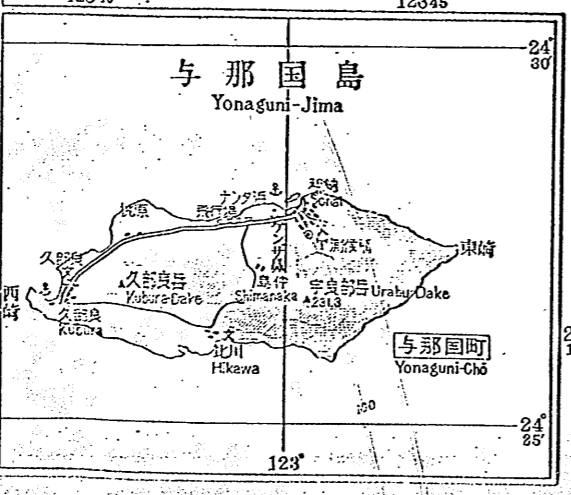
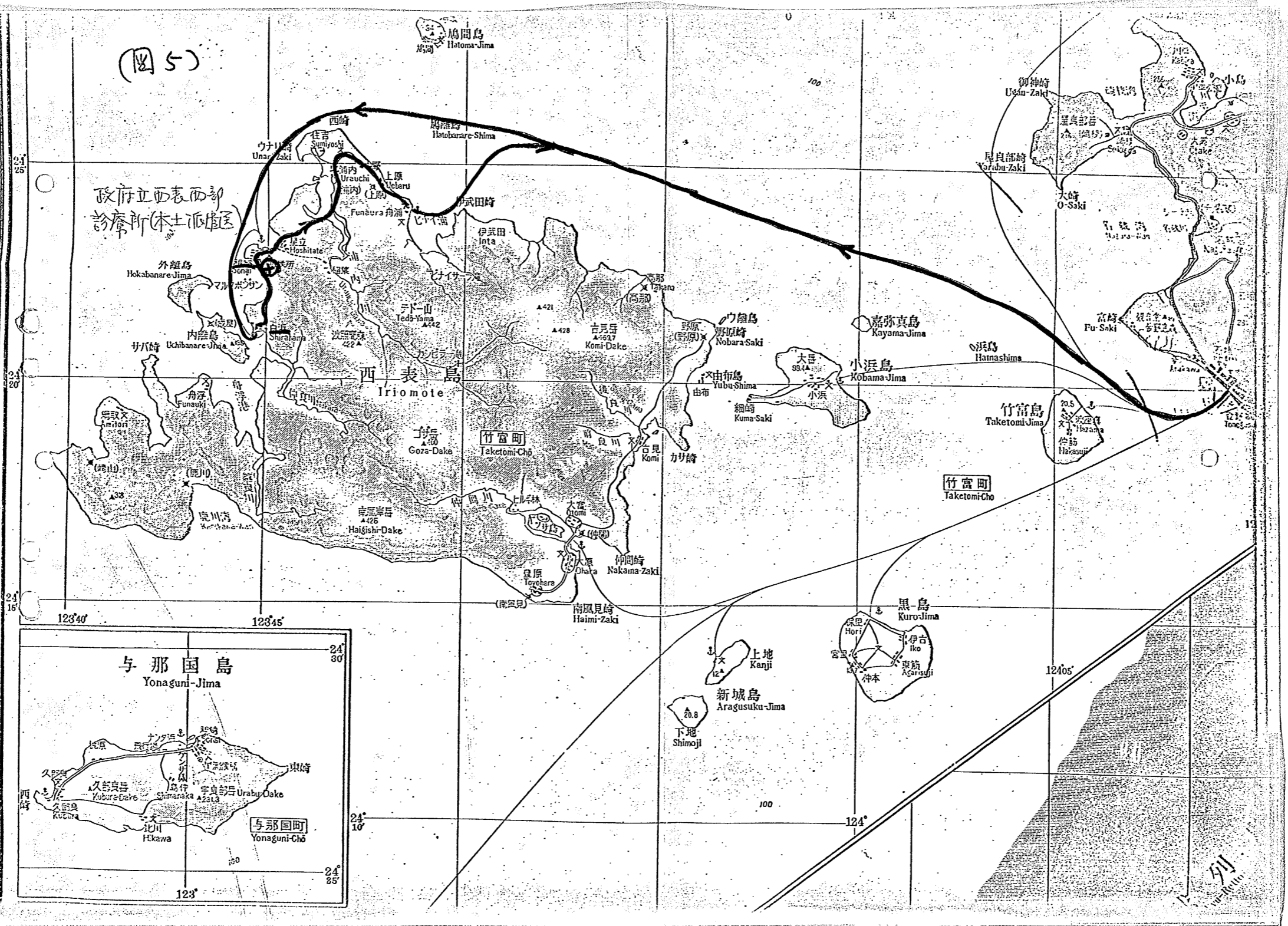
28°

26°

128°

128°

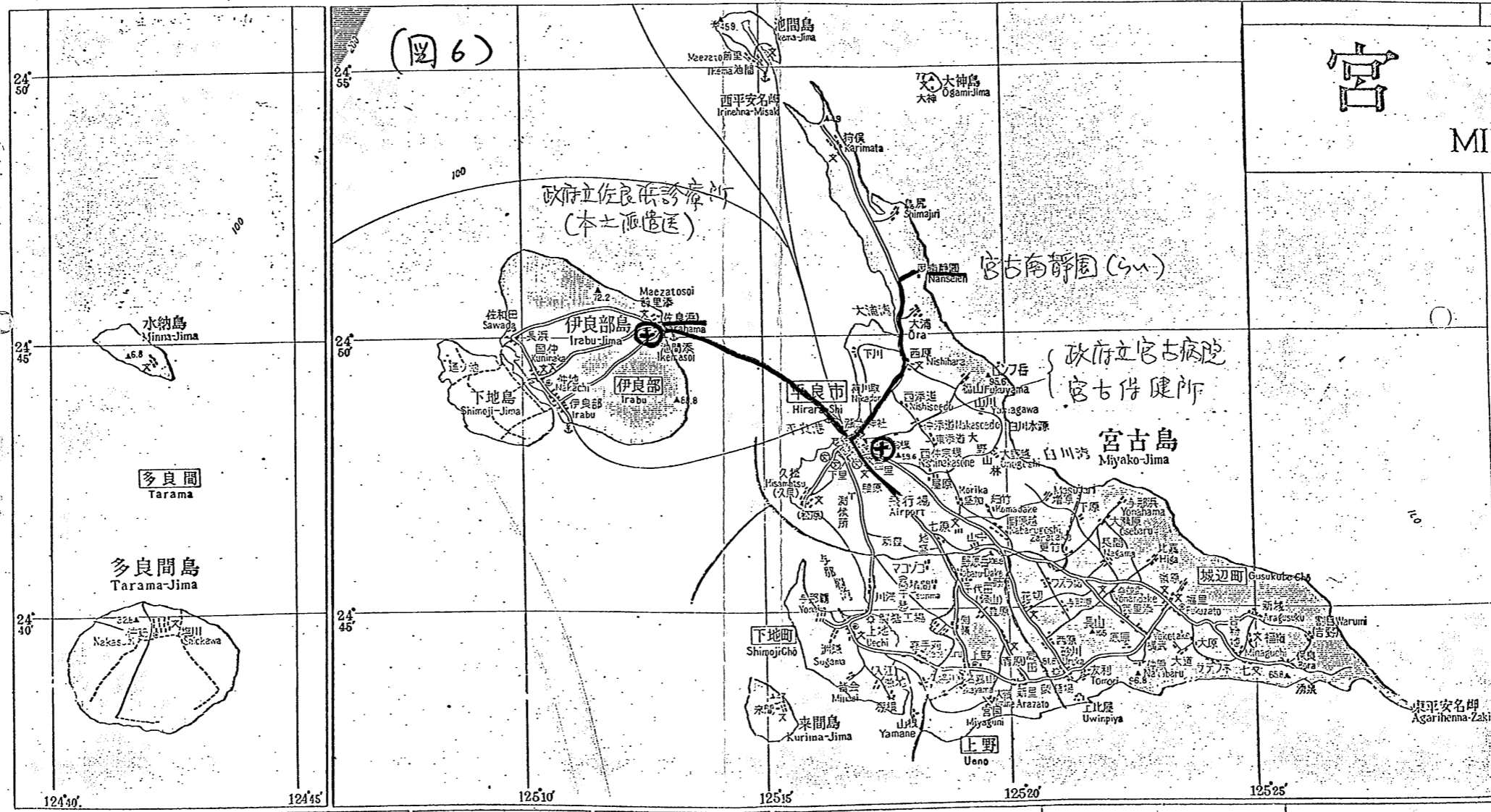
(圖5)



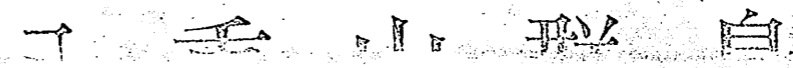
琉

宮

MI



尖 閣 群 島
Senkaku - Guntō



◎ 村立伊江診療所 (8月27日)

伊江村の概況

- 本部町渡久地港から11.2Km。
連絡船(270GT及び140GTの2隻)が1日2往復(所要時間約30分)
- 政府立名護病院からの距離²9.8Km(陸上18.6Km、海上11.2Km)
- 人口約7,000人 世帯数1,400
- 面積22.0Km² 内63%が軍用地(米軍通信隊及び射撃場)

伊江村の医療事情

- 医師1名(村立診療所勤務)
照屋善助氏
琉球政府初代社会局長(1958.4.1~1958.8.31)
1968年12月から村立診療所勤務
- 歯科医師1名
兼城賢昌(伊平屋歯科介輔診療所より来島)
- 公衆衛生看護婦1名(政府公看駐在所勤務)
- 看護婦3名(村立診療所勤務)

• 診療所1カ所 17ベット

村立。1961年より人件費(医師給与)について政府補助を受けている。

従前は、村立私管(個人委託)の開業医的経営をとっていたが、現在は村管で運営している。

患者数は、1日平均32~3名であり、予算規模年2.8万ドルで、0.8万ドルの赤字経営である。(因みに、村の1968年度一般会計予算額は、30万ドル、内保健衛生費は4.6万ドル)。

手術室はあるが、手術は行なっていない。要手術患者は政府立名護病院へ送っている。(手術を行なえば経験のある看護婦を必要とし、人件費が嵩むので、現在の運営が妥当である。)

時間外往診(18:00~23:00)が月平均20件弱、深夜の往診(23:00~6:00)が月平均4~5件程度ある。

照屋医師の処遇について

本診療所は、昨年12月まで医師不在のため一時閉鎖のやむなきに至り、一旦は琉球政府に移管することも考えたが、照屋善助氏を次の条件により採用することができ、沖縄では数少ない町立診療所の一つとして運営している。

(1) 月給 900ドル(手取り)

(2) メイドを1人つけること

(3) 自宅が那覇市にあるため、土曜午後～月曜午前は休診とする。

医薬品の管理について

診療所の医師が交代した場合、前任者の購入した医薬品を後任者が必ずしも使わない場合があるので、医薬品の在庫管理面でロスが多い。

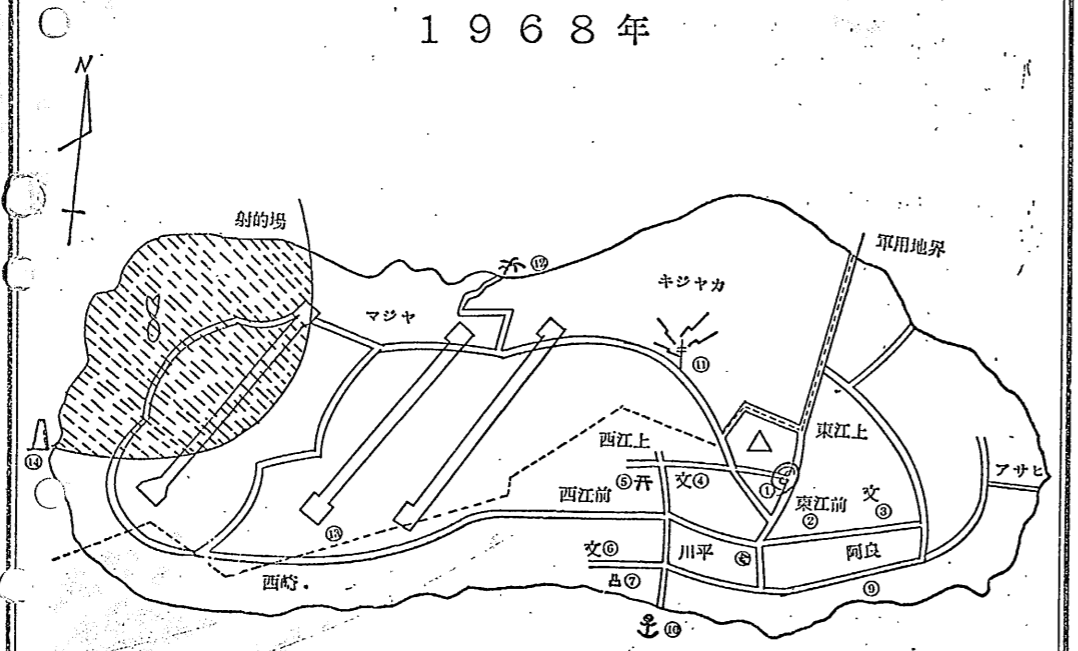
所見

- 1 伊江村は、離島の中では比較的恵まれた地理的条件にあり、村当局の医療問題に対する関心と熱意は高いように見受けられた。
- 2 患者の中には、症状の軽い段階では受診せず、症状が悪化して深夜に往診を求める例が多い。本村では医師の患者に対する指導により、前記のごとき段階まで減少したが、無医地区では往々にしてこのような現象がみられ、これが医師をして離島勤務を敬遠する原因ともなるので、患者、住民に対する指導が整えられる。
- 3 診療所の医師と公衆衛生看護婦相互間の連絡が必ずしも十分

でないように見受けられた。これは琉球政府厚生局内でも医務部と公衆衛生部に分れていることも一つの原因かと考えられるが、少なくとも離島においては、一層緊密なる連携が必要と考えられる。

伊江村勢要覽

1968年



- | | |
|----|------------|
| 1 | 役 所 |
| 2 | 農 協 |
| 3 | 伊江小学校 |
| 4 | 伊江中学校 |
| 5 | 芳魂之塔 |
| 6 | 伊江西小学校 |
| 7 | アーニーバイル記念碑 |
| 8 | 郵便局 |
| 9 | 製糖工場 |
| 10 | 伊江港 |
| 11 | 米通信隊 |
| 12 | 湧 出 |
| 13 | 照太寺跡 |
| 14 | 灯 台 |

▲ 位置地勢及特徴

本部半島の北西5度5分北緯26度44分20秒、東経127度44分50秒より127度49分47秒に位置している。
 北海岸は、約60米の絶壁であり、南側にかけて緩傾斜の地形である。海岸線は殆んど砂浜となっており、村の中央部に172米の古生代チャートの伊江城がある。この山の眺望は、かつて沖繩八景第一位を誇っている。その山麓から海岸にかけては平地であり96,920アールの耕地が拓け8つの部落からなっている、そのうち6部落は伊江城の東および南側に密集し、他の2部落は北西と西南端にある。村の総面積は220,000アール、周囲22軒、村の東西8.4軒、南北3軒となっている。
 伊江城の西側には138,781アールの軍用地があり、総面積の63%を示している。
 その軍用地内には42,005アールの耕作している土地がある。村の地質は全島的に珊瑚石灰岩土壌からなり、土性は礫質土で部分的に壤土の分布が見られ中性に属し、塩化加里石灰等適度の含量であるが、有機物腐植に富まず、細地としての耕作は、容易であるが、保水力には乏しい。

▲ 沿 草

中山、玉城王(在位1314~1336年)時代の政綱は弛緩に達し、ために諸按司は服従心なく三山は互に反目し、民心は全く安定しなかつた。その頃伊江島は伊平屋島と共に植民に占領され北山嶺となつた。その後人文発達し、天文22年(1554年)伊江島稲現堂並びに照太寺が建立された。慶長15年(1610年)には、現地領が作成され地頭代が置かれ(1611年)行政の大綱をこの地頭代が掌っていた。宝永5年(1708年)高良王時代伊江島地頭代の作得根が禰望された。その頃東江村、西江村の外に川平村が増設され3ヶ村となる。東江村(東伊江の略)西江村(西伊江の略)は何時創設されたかさだかでない。東江村を東江上、東江前に、西江村を西江上、西江前と二分したのは明治初年であつて民家の増加に伴い自然にそのように呼んだものであり、特別に分設したとは違ふようである。延享元年(1744年)伊江島全島が12ヶ年の才月を要して完了したが実に精緻なものであつて各人家の所在を明らかにしその数は117戸であつた。全島作製と共に大支那(検地)が14ヶ年の長年月を要し終了したという。明治7年(1874年)地理師が伊江島の風水を見分け津那堂村設立を提言して明治12年に分設したが、飲酒の弊甚だしく幾年ならずして消滅分散した。明治13年(1880年)伊江小学校が設立された。明治23年戸籍法実施、村民断髪を始めたが、これは県下においても率先したものであつた。明治29年(1886年)灯台が建設されたが翌30年には初点火をなす。その規模は高さ10丈18万燭光の一等灯台であり、光達距離19哩であつたが戦災を受け戦後米軍により小規模の灯台が設置されている。大正10年(1921年)村営鉄路事業が開始され、今日の隆盛を見るに至る。戦時中(1945年)軍命により学童は日本本土に、村民は本部町、今帰仁村、久志村に疎開した。村に残つた人々がこれ等の村民と合流したのが1947年3月であり愈々郷村復興の悲願が叶えられ、東江前マク原に一帯集居生活をしてきたが同年7月各人の屋敷に移り(この頃は空軍射的場となつたため米軍より復旧が許されなかつた。)再建のために夜を日についだ血のにじむような努力が続けられ、今日一応生活の基礎を築き将来に希望が持てるようになった。
 1947年次の通り区分がなされ今日の8ヶ区となる。
 阿良区は東江前より 234戸
 真嶺区は西江上より 71戸

西崎区は西江前より 142戸
 1953年良嶺、西崎両区の米軍射的場問題激起、1957年まで円満解決の端緒を見出せず村政面における心痛の種となつていたが、1958年頃から該住民も射的場問題に対し次第に落ち着きを取り戻し冷静なる判断のもとに半永久的住宅建築が始められた。1955年にキジヤカ原に軍の通信施設が設置される。
 1961年5月23日通信施設に支障ありとして民家41戸の立退問題が起る。2ヶ年余にわたり紛争を続けたが1963年12月、民家の移動により問題落着となる。
 1963年11月農協300屯分蜜製糖工場が操業開始し、村経済発展に大きく寄与している。

▲ 土地の状況

総面積	220,000アール
軍用地面積	138,781アール (63%)
耕地面積	96,920アール
農家1戸当	78アール

▲ 世帯と人口

(1968年7月1日現在)

種別	世帯数	男	女	計
東江上	210	619	650	1,269
東江前	250	594	630	1,224
阿良	170	374	426	800
西江上	183	444	440	884
西江前	194	327	364	691
川平	244	550	614	1,164
真嶺	68	181	168	349
西崎	149	382	423	805
合 計	1,414	3,471	3,720	7,191
出生	108			
死亡	45			

▲ 産 業

農 業	1,020戸
水 産 業	94
工 業 業	14
商 業 業	121
そ の 他	161
計	1,419

▲ 交通、通信、宿泊

- ① 道 路
 - 政府道延長 1,378m (波止波~役所前)
 - 市 道 8m
 - 村 道 52本
 - 総延長 47,552m
 - 市 員 4.7m
- ② 車 輛
 - タクシー 5台 運 送 用 14台
 - バ ス 3台 自 家 用 81台
- ③ 郵 便 局 1 (1967年6月27日新局舎落成)
- ④ 電 話
 - 1937年に設置された無線電話は戦災により使用不能、1959年に更に無線電話の設置がなされ、現在140の電話加入者がある。
- ⑤ 宿 泊 施 設
 - 伊 東 旅 館 定員 40人
 - マ ル コ 旅 館 〃 20人
 - 美 園 旅 館 〃 11人
 - 中 島 荘 〃 14人

△ 船舶運航事業

離島なるが故に、本事業が経済、文化の発展のために果たす役割は極めて大きい。船舶運航を特別会計により事業運営をしている。

- ・第一伊江丸(伊江〜本部) 鋼船119.49t 430馬力、速力12ノット
- ・第二伊江丸(伊江〜本部) 鋼船140.6t 530馬力、速力12.3ノット
- ・船舶発着時刻 伊江発 午前9時、午後2時 本部発 午前11時、午後4時
- ・年間観光のため15,000人の往來あり

△ 電気事業

1958年6月1日伊江電力株式会社設立、1960年2月に点灯、1961年9月11日伊江電力株式会社より村が譲り受け電気課を設置、特別会計により事業運営していたが、1963年7月1日より琉球電力公社が施設をそのまま譲り受け発電から配電まで直営で行っている。

点灯戸数

定額灯	168件
従量灯	1,271件
動力灯	34件
計	1,473件

△ 産 業

(1) 農 業

農家戸数1,227戸(10アール以上)で総戸数の86.3%に当る。一戸平均耕地が78アールになるので沖縄では中規模の農業経営と言えよう。主要作物は甘藷で全耕地の57%をしめている。近年機械化農業が盛んになり大型トラクター11台、小型トラクター206台保有している。

経営規模別農家戸数(1967.6.30現在)

規模別	50アール未満	100アール未満	200アール未満	200アール以上	計
農家戸数	617戸	338戸	215戸	57戸	1,227

農協の状況(1967年6月30日)

組合員数	出資口数	出資額
1,346人	46,718	\$ 46,718

主要農業作物作付状況

甘 藷	53,000アール
い も	20,000アール
雑穀類	10,000アール
そ さい	2,000アール
煙 草	11,000アール
その他	10,000アール

(2) 畜 産

畜産は養豚が主で1961年3,500頭もいたが近年糖業ブームおよび甘藷天狗果病の被害により自給飼料が少なく現在では2,200頭程度に減っている。しかし天狗果病の撲滅による甘藷飼料の増加と貿易自由化による糖価下落の収入を補填すべく畜産熱が高まり、豚と牛が毎年増えていく傾向にある。

家畜飼育状況

家畜名	牛	馬	豚	山羊	鶏	兎
頭羽数	650	242	2,462	234	1,312	142

(3) 水 産

漁業戸数94戸(専業73、兼業17)動力漁船4隻、動力付刺網87隻を有しているが、ここ数年米他産業に比し不振の状況にあった。

近年技術の養成と漁具の整備改善により活況を呈しつつある。漁法は沿海漁業で追い込みがその主体をなしており1967年1月から1967年12月末日までの水揚げが250,591kg、\$ 102,156.00となっている。

漁協の状況(1967.6.30現在)

組合員数	出資口数	出資額
115	12,087	\$ 12,087.00

△ 名所旧蹟 その他

(1) 城 山 海拔172m

島の中央東寄りに屹立する本村唯一の山、かつて神輿八景の一位にも選ばれ、その景観が讃えられている。頂上よりのながめもよく、島内は勿論、本部半島、恩納岳、国頭の連山、周囲の島々も一望におさまり、眺望絶佳。

※ 濃き山も あたりに生うる 緑葉も
その座を占めて 海と照り合う

本村出身、小林寂島作の城山讃歌の石碑が山の前面に建てられている。

(2) 芳魂之塔

今次大戦中もつとも激烈をきわめた、本村における戦斗で散華した軍民 3,500余柱の御霊を祀つてある。例祭は4月21日。

歌碑 名嘉元浪村作、伊是名正信書による
「ひねもすをとどろとどろと潮騒の 声をまくらに
ここぞくも 眠れる霊の夢まどかならむ」
が刻まれ、芳魂の安らげきを祈っている。

(3) アーニーパイル記念碑

著名な米従軍記者、アーニーパイル戦死の地。1945年4月18日没。碑は米国民によつて建てられ、毎年4月18日前後の日曜日に厳粛な例祭が催されている。

(4) 照 太 寺 跡

1554年に伊江島指現堂並びに照太寺が創建される。臨済宗妙心寺派に属し住職がおかれ社務を執つていたが去る戦災により灰燼に帰し現在は指現堂と老松のみがその名残りをとどめている。

(5) 湧出水源(ワジー)

北海岸、島の西寄り波打ちぎわから湧き出ること水源は、量質共に優秀で水の少ない本村における村民の生命源となつている。60m余の絶壁が連なり波頭さか巻くこの北岸一帯の風景は又実にすばらしく、潮の干満、晴天、荒天の変化に富み、一大奇観を呈している。なお現在では岸壁を切り開いて波打際までの道路も整備され干潮時には珊瑚礁に巣くう熱帯魚の乱舞も見られる。

(6) 鹿 の 化 石

1956年10月19日埋蔵文化財として指定された。場所はカダ原を中心に北海岸一帯にある。なおこの化石に人工の跡がうかがわれ更にカダ原の洞窟から旧石器時代の人骨と、石器数個が発見されたことなどから同時代の遺跡だと言われ学界の注目を浴びている。

(7) ニヤテイヤ洞 (NiyaTiya-GAMA)

場所は島の南海岸西寄りなぎさにある。戦時中軍の防空壕に使用、たくさんの方が収容出来ることから「千人洞」とも言っている。

行司には子宝に恵まれない婦人がここを拝んで重い石を持ち上げて帰ると願いが叶えられるとの伝説があり、なお旧3月には、ノロおよび女子のみ(男子禁制)のお祭りがある。

△ 教育文化

1. 学校数 中学校 1 小学校 2 幼稚園 2
2. 小中学校、学級、職員、児童生徒数

学 校 名	学級数	職員数	児 童 生 徒 数		
			男	女	計
伊江中学校	17	32	387	348	735
伊江小学校	16	22	300	334	634
西小学校	20	28	372	392	764
伊江幼稚園	2	2	34	43	77
西幼稚園	3	3	54	54	108

3. 公民館 8
4. 保育所村社 1966年8月1日開設
5. 育英会 1958年7月1日設立
村補助金 \$ 20,000.00 (1958年度~1962年度)
6. 映画館 1
7. テレビ 834台

△ 役所職員数 (定数)

課 名	課長	主 事	技 術 員	技 能 員	その 他 の 職 員	計
庶務	1	8		6	2	17
財政	1	8				9
産業			6		1	8
建設	1	2	4	5		12
船舶	1	8		27		36
計	5	26	10	38	3	82

公 君 1 生 改 1 福祉主事 1
教育委員会事務局 3 社会教育主事 1

△ 議 会

議員 10名 事務局長 1

○ 財政、推移 (一般会計決算)

年度別	才入決算額	才出決算額	備 考
1960	204,815.54	190,354.12	庁舎 病院建築
1961	222,908.96	200,421.40	船舶、建造線出
1962	174,729.61	167,816.15	
1963	137,439.63	126,209.17	
1964	180,970.56	171,359.49	
1965	211,377.17	204,659.66	
1966	207,590.09	201,395.52	
1967	251,009.21	245,602.69	

△ 1968年度当初予算 (一般会計)

才 入			才 出		
款 科 目	金額	比率	款 科 目	金額	比率
1 村 税	25,940	6.49	1 議会費	20,746	5.19
2 市町村交付税	151,500	37.94	2 役所費	80,128	20.07
3 公営企業及財産収入	7,074	1.77	3 消防費	1,594	0.40
4 分損金及負担金	5,326	1.33	4 土木費	24,934	6.25
5 夫役及現品	2		5 社会及労働施設費	16,590	4.16
6 使用料及手数料	37,937	9.50	6 保健衛生費	57,975	14.52
7 政府支出金	68,279	17.08	7 産業経済費	78,493	19.66
8 寄附金	1		8 財産費	2,234	0.57
9 繰入金	9,253	2.32	9 選挙費	2,838	0.71
10 繰越金	4,193	1.07	10 公債費	1,141	0.28
11 雑収入	72,845	18.29	11 諸支出金	43,116	10.79
12 村 債	17,000	4.26	12 教育費負担金	69,261	17.34
			13 予備費	250	0.06
才入合計	399,350	100	才出合計	399,350	100

1968年度の村税測定額 \$ 28,559、その徴収率99.7%。徴収の方法は、8部落の30の納税組織をし、組で集める。本村におけるこの制度は古く、明和元年(1764年)頃より始まったと言われている。尚納税預金制度を1958年に設けているがその成果も大きい。

船舶会計

才 入		才 出	
科 目	予算額	科 目	予算額
船舶運航収益	\$ 118,314	船舶運航事業費	\$ 112,300
資本的収入	221,236	資本的支出	227,300
収入合計	339,600	支出合計	339,600

教育予算

才 入		才 出	
科 目	予算額	科 目	予算額
1.教育費負担金	\$ 69,235	1.教育総務費	\$ 9,990
2.分損金及負担金	5,221	2.学校教育費	284,753
3.政府支出金	229,513	3.社会教育費	3,899
4.使用料及手数料	2,004	4.諸支出金	7,540
5.諸 収 入	123	5.予 備 費	265
6.繰 越 金	300		
7.教育区債	1		
才入合計	306,447	才出合計	306,447

竹 富 町

竹富町の概況

- 竹富島、黒島、新城島（上地、下地）、小浜島、西表島、鳩間島及び波照間島の7島からなる。
- 竹富町の各島しよの石垣港からの距離、定期連絡船による所要時間、面積、人口、世帯数、医療施設の状況は図のとおりである。
- 竹富町の各島しよにおける飲料水の供給状況、電化状況及び警備艇「はやかぜ」（八重山警察署所属）の接岸可能地域の状況は、それぞれ図8、図9、及び図10のとおりである。
図11及び図12

政府立西表西部診療所の概況

所在地： 竹富町西表島租納
開設時期： 1966年7月
管内人口： 972人（1968年1月31日現在）
職 員：
医 師 土 肥 一（1966. 8. 30~1967. 8. 30）
松 本 清（1967. 9. 1~1968. 9. 16）
坂 本 三（1968. 9. 16~1968. 12. 31）
浜 屋 七雄（1969. 5. 28~ ）
看護婦 1名 事務職員 1名
1日平均患者数： 4~5名（1968会計年度）
患者1人1日当り診療費： 1.4ドル
夜間往診：
その他： 住民の態度は非協力的である。

八重山病院

1 現 状

(1) 一般病床は、開放性として運営してきたが、開業医師の利用度の減少により、準開放性として運営している。

また、八重山地区における結核対策の一環として結核病床が附設されているが、閉鎖性で運営し、勤務医師と日本政府からの派遣専門医師がその診察に当たっている。

(2) 外来患者は、施設の不備のため原則として救急患者と紹介患者に限定されている。

病床数及び医療関係者数

一般病床	結核病床	病床総計	医師	看護婦	薬剤師	検査技師	X線技師
26	70	96	3	25	1	2	1

2 問題点及び施策の方向

(1) 病床数の大半を結核病床数で占めているので、現状は療養所的性格を帯びている。

(2) 八重山地区における一般病床総数について、人口対比で見ればかなり低い現状にある。

その抜本的改善の方策として年次計画で八重山病院の一般病床を増設すると共に、外来診療棟の整備を行ない、同地区における医療施策の強化を計りたい。

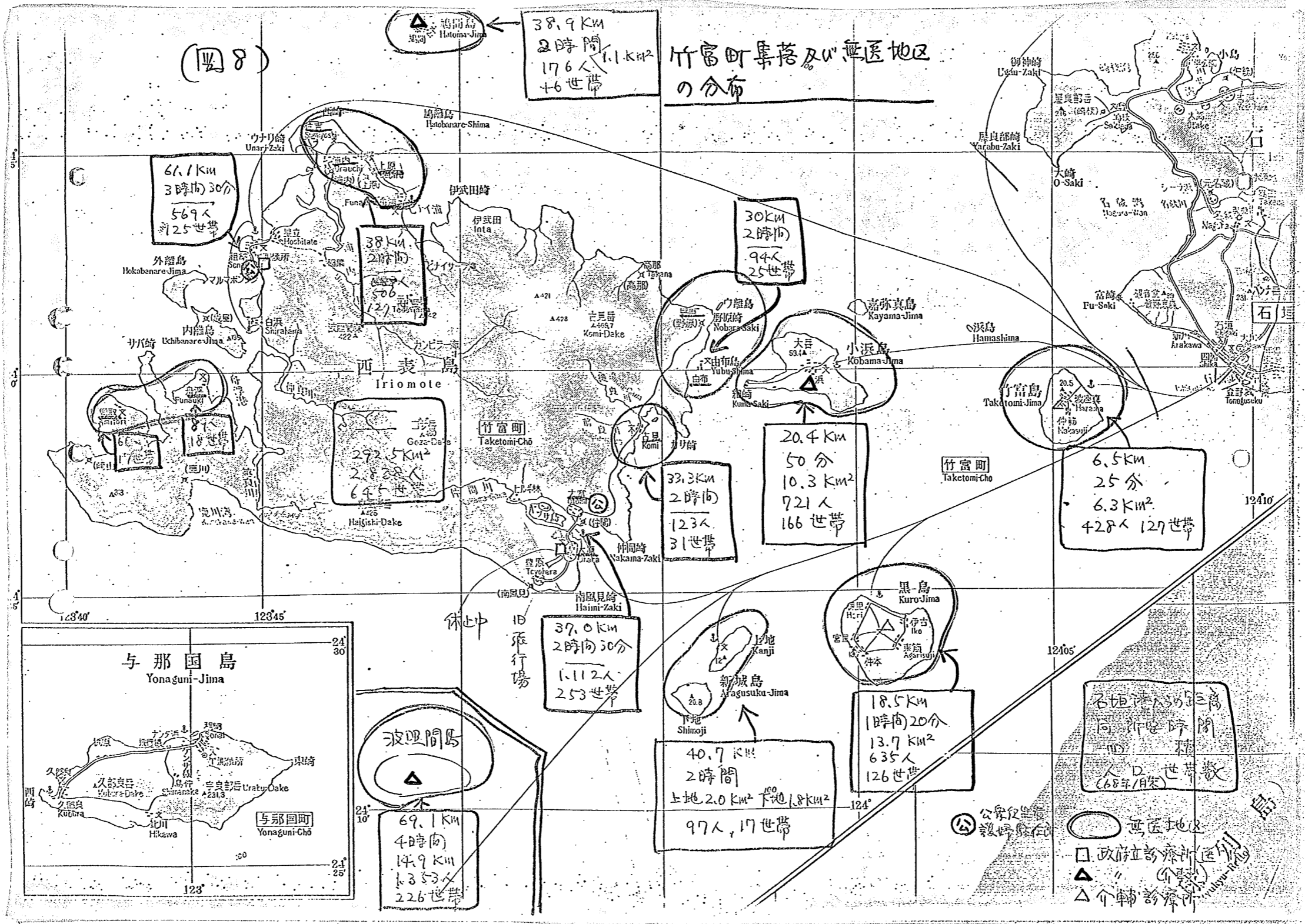
(3) 八重山地区においては、精神科の医療機関が皆無の現状にある。同地区における精神患者数は、約240名と推計されているので、精神衛生対策の一環として八重山病院に50床規模の精神科病棟を附設し、その対策の強化を計りたい。

一般病床数の人口対比

人 口	病 院	診 療 所	病床数計	人口10万対比
52,012	26 床	53 床	79 床	151.9

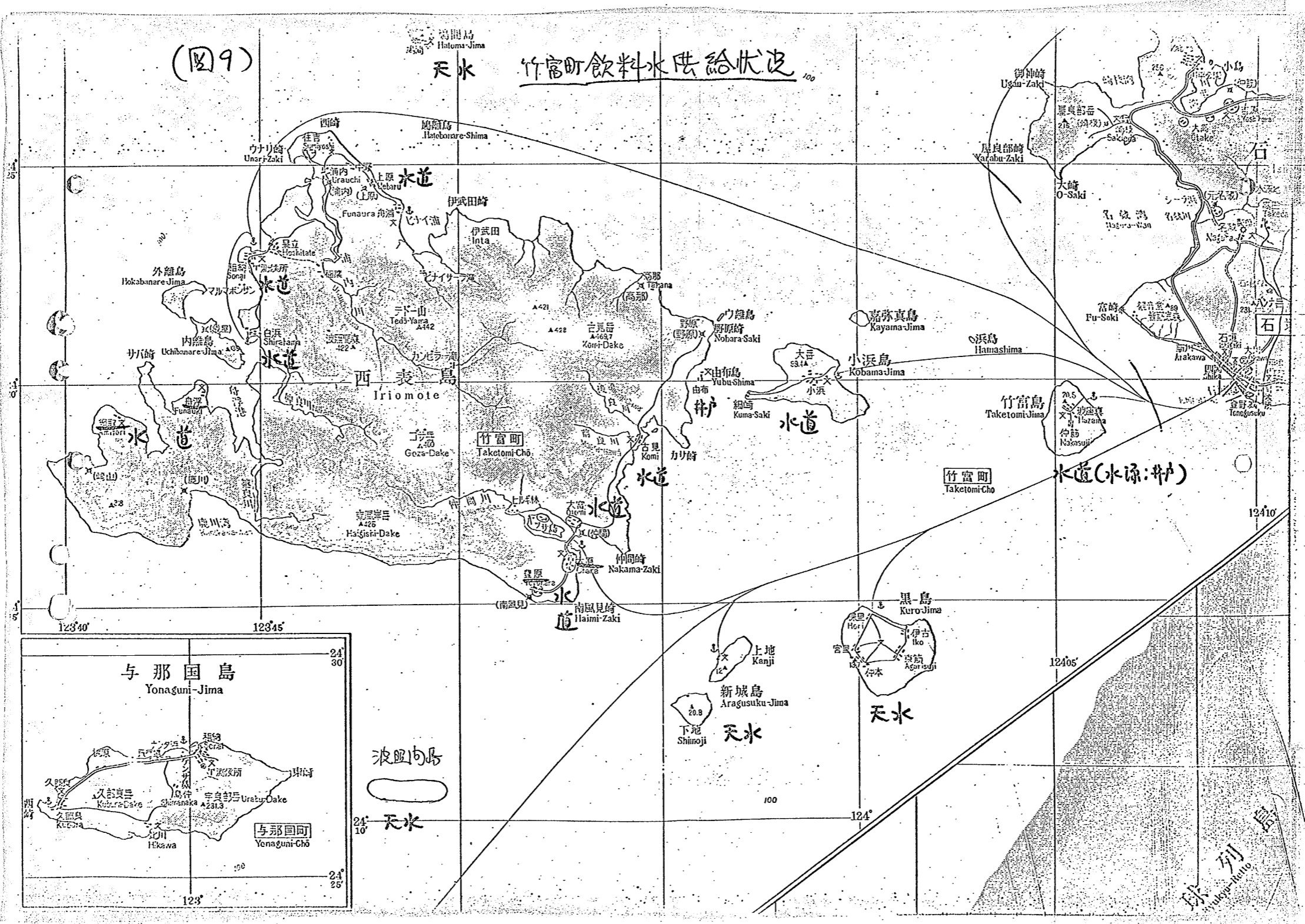
(四八)

竹富町集落及び無医地区の分布



(图9)

竹富町飲料水供給状況



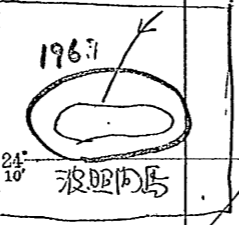
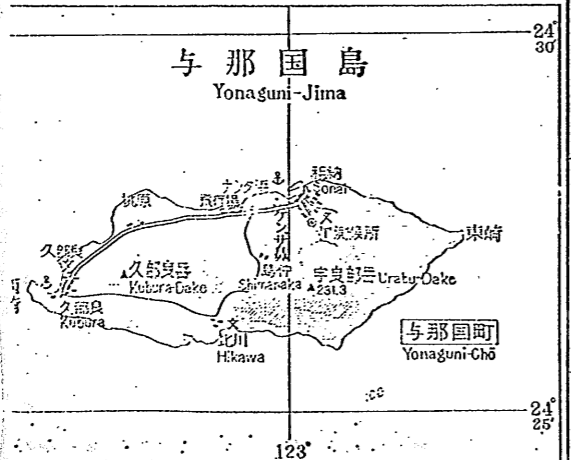
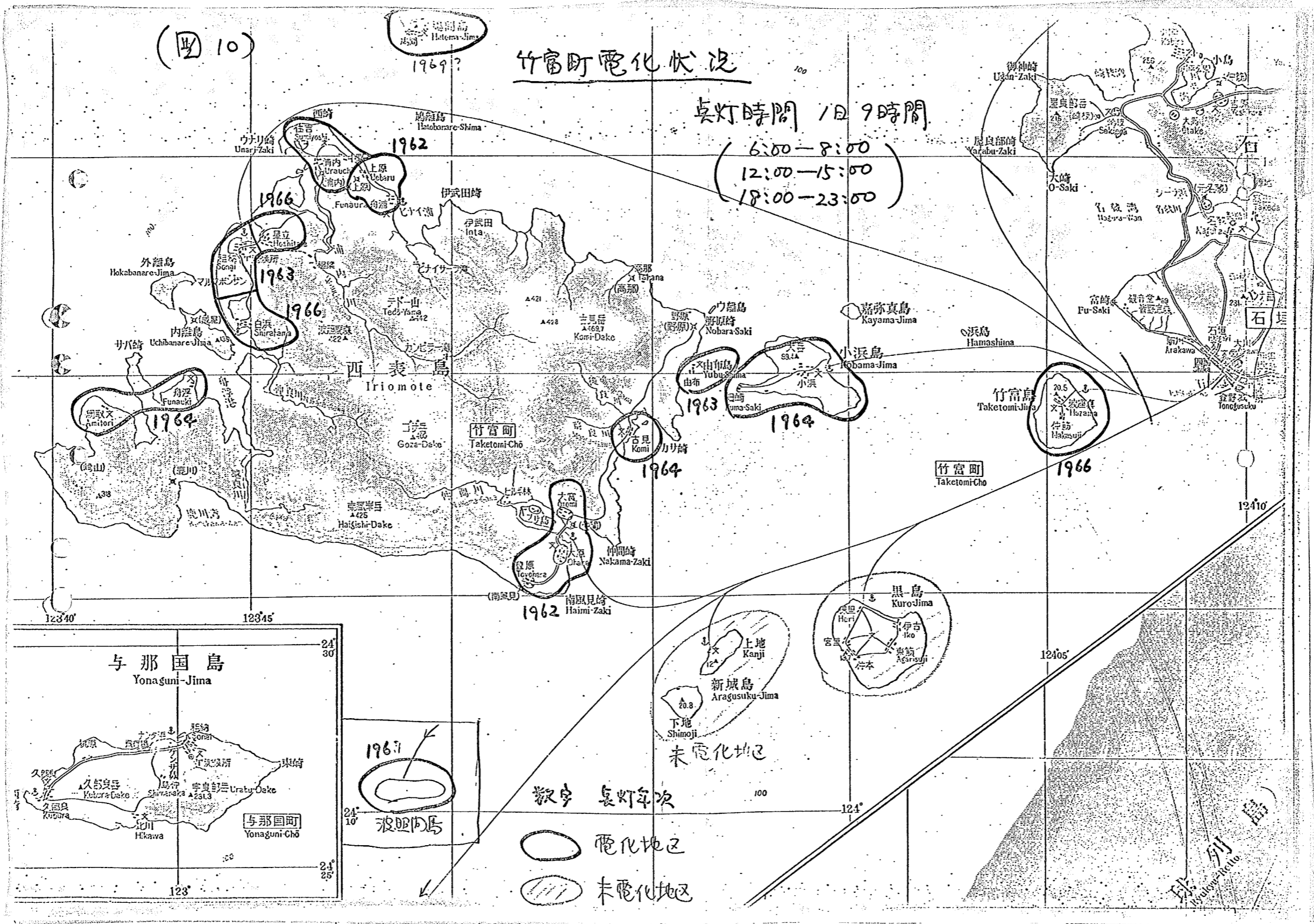
(四) 10

1969? 1969?

竹富町電化状況

昼灯時間 1日9時間

6:00-8:00
12:00-15:00
18:00-23:00



数字 昼灯年次

○ 電化地区

▨ 未電化地区

。警備艇「はやふせ」の概要

。所属：琉球政府八重山警察署

トン数： 27.4 GT

速力： 18 ノット

建造： 1966年 神戸 建造費5万ドル

維持費： 年向約 2,200ドル
(燃料費 ^{月平均9日出航を以て} 1,200ドル
修繕費 1,000ドル)

乗組員： 4名 (交代要員なし)

吃水： 1.8 m

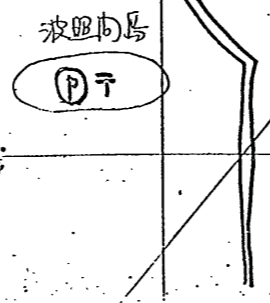
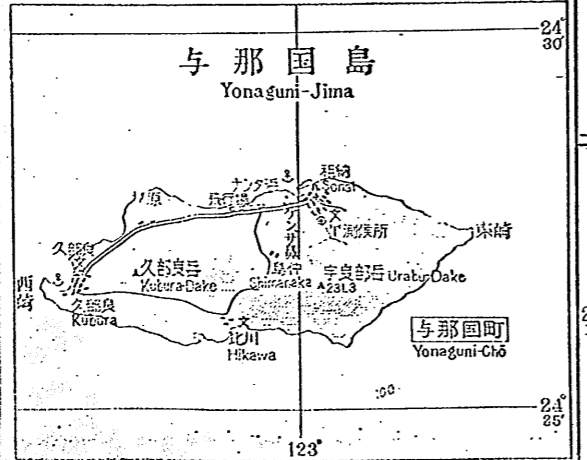
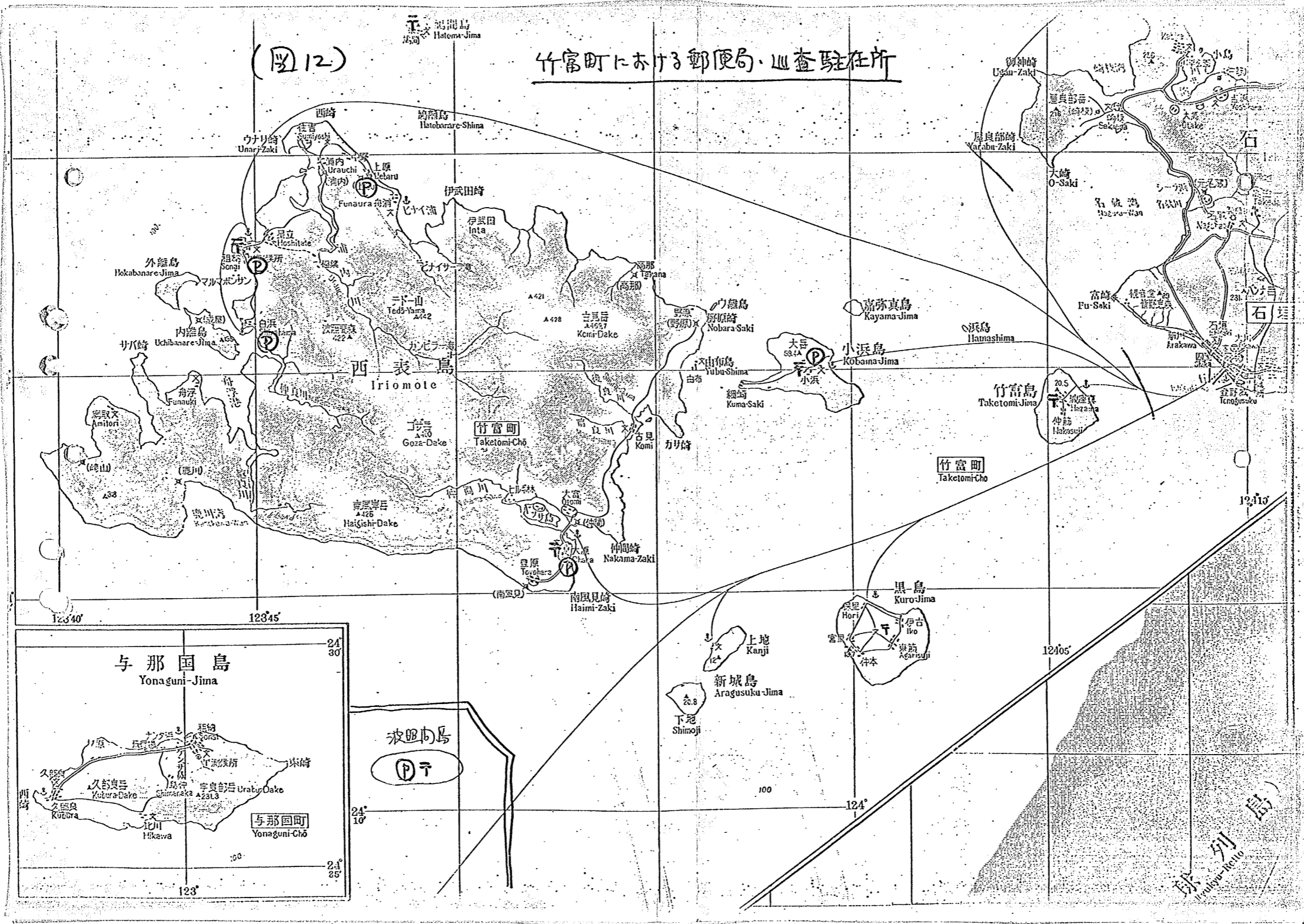
その他： 風速 10 m/sec以上になると
航行危険。15 m/sec以上不能

接岸可能地域： 八重山群島における
接岸可能地域は別紙地図に
示すとおり。

問題点： 救命ボート又は小型ボートが必要
(接岸不能地域に活動した場合)

(圖12)

竹富町における郵便局・巡査駐在所



琉列島 (Ryūryū-jima)

政府立佐良浜診療所の概況

所在地： 伊良部村佐良浜

開設時期： 1961年前

管内人口： 10,263人(1965年10月1日現在)

職員：

医師 鯉月晴夫(1961.1.28~1963.7.19
死亡)

作井 愨一(1964.7.24~1965.8.16)

佐藤 光也(1967.9.1~)

看護婦 1名 事務職員 1名

他に伊良部村において、メイド1名を雇用

1日平均患者数： 30名

深夜往診： 週平均3回

患者1人1日当り診療費： 1.2ドル

その他： けんかによる外傷の例がめだつ。

宮古病院

1 現 状

一般病床は開放性として運営してきたが、開業医の利用度が減少し、半開放性で運営している。

また、宮古地区における結核対策及び精神衛生対策の一環として結核病棟と精神病棟を附設しているが、これは、閉鎖性で運営し、勤務医員がその診療に当たっている。

病床数及び医療関係者数 1969. 2 現在

一般病床	結核病棟	精神病棟	伝染病棟	医師	看護婦	薬剤師	検査技師	X線技師
48	48	50	0	4	40	1	3	1

注：看護婦数には、監護人7名を含む。

2 問題点及び施策の方向

(1) 病床規模に比し、一般病床は僅か33%の保有率で現状は施設所的性格を帯びている。

(2) 宮古地区における一般病床数について人口対比で見た場合かなり低い現状にある。

その抜本的改善の方策として年次計画で宮古病院の一般病床を増設すると共に外来診療棟の整備を行ない、同地区におけ

る医療施策の強化を計りたい。

一般病床数の人口対比

人 口	病 院	診 療 所	病床数計	人口10万対比
69,825	48床	60床	108床	156.5

政府立宮古南静園概況

1 沿革

- (1) 宮古南静園は1931年3月14名収容の沖縄県宮古保養院として開設した。
- (2) 1941年収容定員300床に増設されたが、第2次大戦中の無理がたたり、終戦間もなく多くの患者が亡くなった。
- (3) 終戦と共に患者の再収容と施設の再建に努力し、現在は360人の収容能力をもつ施設に拡充された。

2 概況

- (1) 職員数 57人

医師1人 看護婦16人 その他40人
本土政府より派遣(多摩全生園医師)

- (2) 予算額 (1969年度)

運営費 259,376ドル

施設費 107,711ドル

- (3) 収容患者数 245人 (1968年12月末現在)

- (4) 教育

ア 児童については、小中学校が設置されている。

イ 高等教育については、日政援助により、本土へ送り出

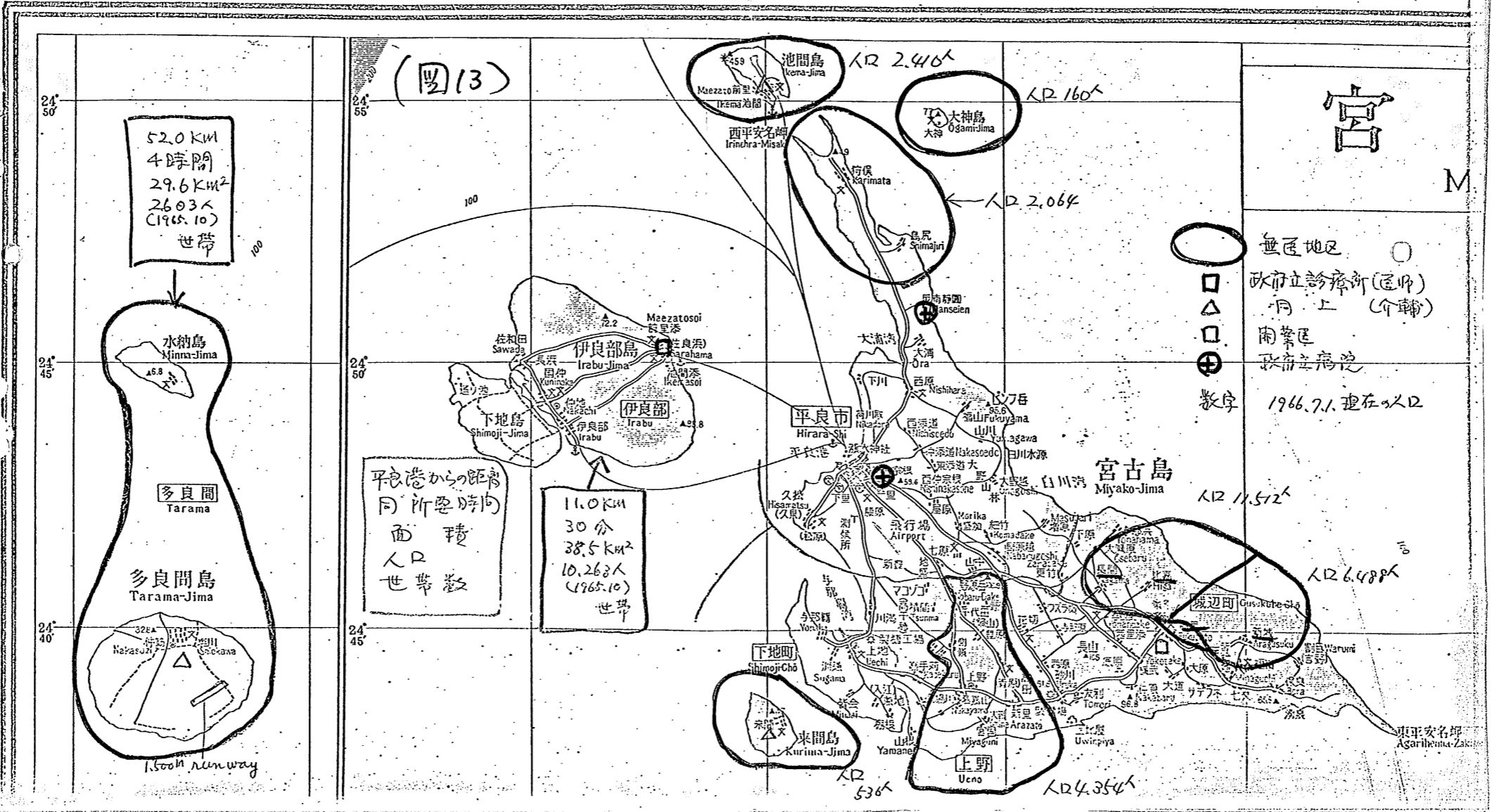
している。

ウ 成人については、実務教育を行なっている。

琉

宮

M



(別紙)

巡回診療制度構想骨子

(一) 目的

沖縄。無医地目の住民に対して巡回診療車のほか、沖縄の地理的特徴を考慮して快速艇及びヘリコプター等による定期的な巡回診療を行ない、住民が均等に医療を受け、機会を与え、もって無医地目の状態を解消することをす。

(二) 親元病院及び巡回診療の手段

巡回診療の根拠地たる親元病院及びその診療担当区域及び巡回診療の手段は次のとおりとする。

病院名	巡回診療担当区域	巡回診療の手段
名護	沖縄本島の北部地域	巡回診療車
中部	沖縄本島周辺の離島	ヘリコプター 一機 快速艇 一隻
喜望峯	喜望峯島周辺の離島 (多良間島を除く)	快速艇 一隻
八重山	八重山群島及び多良間島	ヘリコプター 一機 快速艇 一隻
那覇 中部	遠距離離島(南北大東 与那国)緊急用等	飛行機 一機

(通) 工、快速艇は、沖繩の海岸はほとんど礁の多いこと、潮の干満の差がかなりあることを考慮に入れて、吃水の浅いものであることを要する。
又、飛行機は、要すれば水陸両用の型が望ましい。

(三) 巡回診療実施箇所

医師の配置を以て、政府立診療所及び市町村立診療所において、診療を実施することとするが、それ以外の地区においても、公民館その他の適当な箇所において実施することとする。

(四) 本土派遣医師が配置されている診療所については、今

後もし引き続き派遣医師を配置するよう努めるものとするが、契約期間満了後、後任者が得られなくなった場合は、巡回診療の対象地区とする。

又、今、神が配置されている政府立診療所及び一般開業医が所在する地区については、巡回診療、回教を適宜調整するものとする。

(五) 巡回診療班の編成

巡回診療班は、医師(内科、外科)、看護婦及び運転要員をもって編成し、必要に応じて専任内医及び歯科医師もこれに加えるものとする。

五、薬品、器械等の設置

巡回診療において使用する薬品、器具、器械は、原則として巡回診療実施箇所、診療所、公民館等に設置しておくものとする。

六、巡回診療の回数

巡回診療は各地日も原則として一週間を三回(三)のたりは週二回(二)とし、その日接は例えは次のとおりとする。

名護病院

オ一日

オ二日

中野病院

オ一日

オ二日

名古病院

オ一日

オ二日

八重山病院

オ一日

オ二日

七、巡回診療に要する費用負担

巡回診療に要した費用のうち、診療料、処置料

薬剤、治療材料は、患者の負担とし、医療保険、生活保護、自費等により措置するものとする。

(注) 巡回診療の運営に要する費用は、住民皆保険体制が確立した場合には、各機医療保険共通の福祉施設として各保険者から応分の負担金を分担させることとし考へらる。

その他

巡回診療を円滑に実施するためにも、道路網、港湾、飛行場、通信施設、整備を図る必要がある。

沖縄の医療施設善視業務報告書(案)

(沖縄一体化に伴う医療関係の問題案と対策)

衆議院議員 箕輪 登

昭和四十四年八月二十二日から九月一日までの十一日間、沖縄の

医療施設を視察するに現地を訪問し、その概要を報

告する。

一日 行程

月日	行程
八・二二 金	琉球政府及び日本政府沖縄事務所訪問
二二 土	USCAR・琉球政府日本政府沖縄事務所、会議、医師会、懇談
二四 日	那覇 → 名護
二五 月	名護診療所、名護病院、名護保健所訪問
二六 火	新那覇病院看護学校、整形外科療護園、精和病院、琉球結核研究所訪問
二七 水	伊江島、伊江石五診療所訪問
二八 木	八重山病院、八重山保健所訪問、竹富島(無医地)視察
二九 金	西表西部診療所訪問及び地元住民との懇談
三〇 土	伊良部島、佐良波診療所、喜古南静園訪問
三一 日	喜古病院、喜古保健所訪問
九・一 月	那覇 → 東京

二、医療の現状と今後の対策について

(一) 沖縄の現状と日本政府の医療援助

沖縄における病院は十九カ所(うち政府五十カ所) 診療所は二百八十九カ所(うち政府五十四カ所)で、このほかに歯科診療所が九十九カ所ある。政府五カ所無医地区診療所は三十三カ所あり、日本政府から医師十三名が派遣され、その他の診療所には介神が設置されている。

病床数は六千六百七十三床で人口対比では本土の六割程度である。

また、沖縄の医師不足は著しく、昭和四十二年末で四百七十七人、人口十万人当り医師数は本土の三分の一程度である。

(本土、人口十万人当り医師数百十一・一人、沖縄四十二人) 以上の現状に対して、日本政府が現在実施している沖縄医療援助は次のとおりである。

(1) 無医地区に対する医師の派遣

昭和三十六年一月以降、無医地区にある政府五診療所に公募した医師を任期三年で十五人派遣している。

(2) 琉球政府立病院、保健所等への医師の派遣

昭和三十九年一月以降、琉球政府立病院、保健所等の医療の充実向上に協力するため、現在国立病院、国立療養所等から十五人を派遣している。

(3) 無齒科医地目に対する巡回診療

沖繩。無齒科医地目に対し、昭和三十六年八月以降本土齒科大学から順次三か月交替で三名ずつ、年間四班を派遣している。

(4) 各種医療関係専門家派遣及び研修

琉球政府の要請に応じ、各種医療関係専門家派遣、派遣、研修員の本土受入れを行っている。

(5) 沖縄結核患者の本土受入れ

日本政府は昭和三十七年七月から沖縄結核患者を本土国立療養所に受入れ治療することとし、現在五百九十三人を受け入れられているが、受入患者実数は今までに二千五百五十三人に達している。

二 沖縄における医療の問題とその対策

(一) 医師及び介補について

沖縄の医師の不足は深刻で、本土と比較して人口対比で三分の一程度しかおらぬ。とくに医師の大半が那覇市及びコザ市に集中している。これらの市以外では医師の不足が深刻である。

また、沖縄は離島が多いため本土の僻地と同じような勤務条件等の問題で医師が離島に行きづからず、医師数の絶対的不足と相まって離島へはき地、医師確保が大きな問題となっている。

(二) 医師確保の取られべき措置は、個人については、

待遇の改善、施設については、医学、医術の研修研究を行
はらう。施設の整備が必要である。研究研修のためには
那覇病院、中部病院を整備する必要がある。

(2) 少くも医師で沖縄全体の医療を効率的に遂行す
るためには、各種機動力を整備し、弾力的に対処する方
法を考慮する必要がある。
具体的方法として別紙「巡回診療制度構想」により
へき地離島を定期的に巡回診療させることが効果的
と考へる。

(3) 医師の増加を図るための沖縄出身の国費留学生の未
帰還者を一層強力に促進する必要がある。

(4) 医師不足に対処するための沖縄と特殊な制度として現在
分補制度がある。分補が僻地医療に貢献した功績は
大きい。かつ、平均年齢が高い。従って、復帰の時機
に於ては、現在、分補の活動を続けさせるような配慮措
置が現実的は政策として必要と思われる。
分補、分補が死にまたは就業不能になった場合には
その後引続き医師として診療が行われようとする方
策を講ずべきである。

(二) 医療施設

(1) 沖縄。病床数は本土と比較して甚だ少く、今後医師の確保対策と併行して増加を計らねばならぬ。ただし、結核病床については、本土の結核療養所より、^{療養所}療養所問題がやまされることのないよう、今後将来計画のもとに増床計画を進めねばならぬ。また、政府立病院は地域医療の親元病院として整備されねばならぬ。

(2) 現在着工中。新那覇病院。是れは沖縄の医療に大きく寄與するものと考えらる。同病院は琉球大学保健学部の実習病院としてはもとより、地域医療のメデイカルセンター及び臨床研修病院として医師確保の面においても多大の効果が望まれる。従って、十分な施設設備の整備、本土からの医師派遣を行なうべきである。

(3) 先島地域の政府立病院の整備は早急に終わらねばならぬ。沖縄本島から離れている宮古、八重山地区の病院の現状は、如可もなものであり、巡回診療の根拠地となる親元病院として独立して、機能を發揮し得るようスタッフの充て、設備内容の充て、兼備の強化を待たねばならぬ。

(4) 政府五病院は開放型病院として運用されているが、
実際に開業医が利用しているのは教パーセントの過半
に達して、一般総合病院として外来診療の整備を
検討すべきである。
開業医との連携を促すことは勿論である。

三、むすび

沖縄の医療は以上述べた通りであるが、沖縄の医療対
策については琉球政府も積極的取り組みを行っている姿勢
がうかがえるが、派遣医に関する日琉両政府間の取りまの
おいて約束されている「派遣医の快適な生活の保障」につ
いては、おね、きめの細かい配慮を要する点がある。一

市町村の中には、一部の町村を除いて医療対策に関し、積
極的姿勢が欠けているところも多く、さらには無医地区派遣医に
対する町村当局及び住民の理解と協力が必ずしも十分
でない例がみられる。

また、問題点の性格から考えて、一体化の後も日本政府
はさらに援助を継続する必要があるものと考へる。
おね、本土からの医師派遣については、医療の特殊性から
優秀な医師が長期に滞在できるように、また、一体化の後も引き
続き医師派遣が実施できるように今後の計画を推進すべき
である。

以上が報告の概要であるが、沖縄における皆保険の前
提として、前述のような医療体制の整備を行うわすして皆

保険も実施することは不可能であると考えらるるので、速
やかに医療体制を整備することが望ましい。

(1971)

昭和44年9月3日(水)
沖縄タイムス(夕刊)

医療機関の整備を

箕輪氏、首相に報告 皆保険の実施で強調

【東京】沖島の医療整備をめぐり、首相官邸で、首相官邸医務官(副)・箕輪啓二(四一)と、沖縄県知事(副)・伊藤久(四一)が、午後二時から約一時間、話し合った。箕輪氏は、沖縄の医療機関の整備をめぐり、首相官邸で、首相官邸医務官(副)・箕輪啓二(四一)と、沖縄県知事(副)・伊藤久(四一)が、午後二時から約一時間、話し合った。

箕輪氏は、首相官邸で、首相官邸医務官(副)・箕輪啓二(四一)と、沖縄県知事(副)・伊藤久(四一)が、午後二時から約一時間、話し合った。

一、医療機関の整備をめぐり、首相官邸で、首相官邸医務官(副)・箕輪啓二(四一)と、沖縄県知事(副)・伊藤久(四一)が、午後二時から約一時間、話し合った。

一、医療機関の整備をめぐり、首相官邸で、首相官邸医務官(副)・箕輪啓二(四一)と、沖縄県知事(副)・伊藤久(四一)が、午後二時から約一時間、話し合った。

昭和44年8月31日(日)
八重山毎日新聞

記者席

箕輪議員の医療行政構想

△沖島の医療制度をめぐり、首相官邸で、首相官邸医務官(副)・箕輪啓二(四一)と、沖縄県知事(副)・伊藤久(四一)が、午後二時から約一時間、話し合った。

米国防衛関係の在沖資産(軍道など)について

「復帰にまつての日米交渉の際、米国防衛の在沖資産の買収と関連して打戻しとなると思われ、この事項は概ね次のように分類することができ、

- (1) 沖縄における秘密軍事費以外の米国防衛支出
- (2) USCARの管理する財産 (General Fund あるいは公社など)
- (3) 沖縄のトク馬貨
- (4) 軍民が共用する軍道など
- (5) 秘密軍事施設

2. 上記(1)～(3)については、1969年8月25日付け「沖縄における米国防衛支出の50%はUSCAR管理資産にまつて、あとの50%は通貨の管理にまつて」とを参照されたい。

3. 軍民が共用する軍道などについて

(1) 現在(1968年8月)米軍および沖縄住民が共用している軍道付新築地帯の大部分は、総延長約258kmである。しかし殆んどが沖縄の主要幹線である。(第1表参照)

(2) この中の軍道の一部は、当初GARROA援助で建設された(約6850トンと推定される。このうち約100トンを含む)が、それ以外については秘密軍事費による建設である。この中の軍道の改良・維持・管理については在沖米軍が行っており、その費用は秘密軍事費が負担している。GARROA援助による道路の改良も秘密軍事費による。全面的に改良・維持され、GARROAの現存価値は格差を除去する殆んど等しい。

(3) 道路敷地の総面積は不詳であるが、殆んどが私有地である。主要幹線に占める私有地面積は約3km²で、これに対して米軍は年間約360トンの借地料を支払っていると推定される。(第2表参照)

(4) この中の道路は、沖縄の復帰後、国道・県道・市町村道(道路法による)のいずれに編入するか、あるいは軍用に使用されるかを決定する特別措置(例えば防衛施設庁道路)を

諸君が特別な差慮を要する。

(5) 米軍の道路の支主軍管領に付、在沖米軍の琉球政府に対し移管し
下い旨の要請がなされた。しかし、借地料維持管理費用などの財政上の内
題もその交通管理上の内題で、合意は達しなかった。

(6) 軍民が共用している施設は、陸道の外に那覇空港がある。那覇那覇港は北岸を占
領が南岸を米軍が使用管理している。米軍の施設に付ても、軍道と物の出入の内題
がある。

4 陸軍施設に付いて

在沖米軍(陸軍、海軍、空軍)の施設(在沖米軍の4軍、その他に在沖)の陸軍施設の
内題は詳らかに付かないが、次のような内題がある。

(1) 1962年2月28日、日本国会議員と報道関係者からの沖観視察団に対する説明
会で、Cannaway 高築弁務官は10億ドルの基地と述べた。

(2) 1964年3月18日、米下院本出参で、Cannaway 高築弁務官は、建設施設面での約
10億ドルの物品もその役務を含む11億8千4百ドルと述べた。これは、
(阪中友久「アメリカ戦時下の沖観視」朝日新聞社)

(3) 1966年2月18日公表のサマロウキー報告に「米軍付琉球列島一大部分は沖観一
軍事施設に付いては10億ドルを超過する投資を必要とする」と述べた。(沖
観視問題基本資料集「南支那領土保護会」)

(4) 1966年3月30日、米下院軍事委員会で、Waldman 高築弁務官は琉球軍事基地付不動産
約7億ドル、器材類の約5千4百ドル、在庫品約4億7千4百ドル、計約15億ドルと
述べた。(同上)

しかし、その内容と範圍は概下程であるが、償却済みの現在(西暦)である
のか明かさない。

第1表 軍民共用の軍道一覧表

(単位 m)

路線名	起	終	延長米	4車線		備考
				1車線	2車線	
合計			258,880	31,245	227,635	
1 主要幹線			212,530	31,245	181,285	
2 物産(後別冊)			13,200	-	13,200	
3 その他(本別冊)			33,150	-	33,150	
1 至聖幹線			212,530	31,245	181,285	
1 芝線	石戸薨	石護	65,562	22,856	42,706	7x7.14x5.74x1.30x
3 野線	川治橋	野薨	1,520	555	965	
5 野線	野薨	ASA	12,230	6,005	6,225	
6 野線	読谷村伊良部	読谷村野辺	1,705		1,705	
"	奥村村仲島	石川市奥恩納	4,542		4,542	
7 野線	小瀬三叉路	糸満町照屋十郎路	8,200		8,200	
8 野線	真志川市栄野比	真志川市安分石	3,098		3,098	
"	"	大田入口	8,336		8,336	
10 野線	"	早良川	2,819		2,819	
13 野線	糸満町照屋十郎路	糸満町五座	1,302		1,302	
"	与那原三叉路	キヤコウ辺野古	56,862		56,862	
16 野線	真志川市栄野比	真志川市栄野比	6,440		6,440	
"	真里村知花十郎路	真志川市栄野比	1,954		1,954	
20 野線	コガサキ通	与那原	427		427	
22 野線	与那原入口	出原橋(3車線)	3,298		3,298	
24 野線	コガサキ通	真志川市栄野比	7,397		7,397	
30 野線	宜野湾市伊差	北中城村渡口	5,560		5,560	
34 野線	"	大田路	1,471		1,471	
44 野線	野薨	佐敷村新里	14,087		14,087	
52 野線	糸満町五座	高良	1,476		1,476	
130 野線	北谷三叉路	キヤコウ三叉路	1,829		1,829	
137 野線	佐敷村新里	五城村新里	2,415		2,415	

第1表 聖氏が共用する聖道一覽表(續)

(單位:米)

路線名	區		延長米	4車線		備考
	起	終		1車線	2車線	
24号線(支線)			約	約	約	
24号線	長志川神社台	石川市東聖納	5,400	5,400	13,200	幹線 7x7.6L.コケレ-1車線
7号線	那覇市垣花地内		800	800	800	"
	平良市倉港	土聖村野原	5,000	5,000	5,000	簡易倉庫
	淨江村地内		2,000	2,000	2,000	"
3号線(支線)			約	約	約	
	糸満町五座	糸満町廣文仁	33,150	33,150	33,150	
	町地村牛馬次	多野岳	3,700	3,700	3,700	7x7.6L.コケレ-1車線
	本部町伊野渡	八重岳	4,600	4,600	4,600	"
	恩納村倉茶	石川岳	5,400	5,400	5,400	簡易倉庫
	親倉村藤原	成波山	2,300	2,300	2,300	7x7.6L.コケレ-1車線
	味登志志川村花咲港	大岳	2,250	2,250	2,250	砂利道
	波嘉敷村渡嘉敷地内		2,650	2,650	2,650	"
	五城村垣花	知念村倉倉	800	800	800	簡易倉庫
	金武村並里地内		4,000	4,000	4,000	7x7.6L.コケレ-1車線
	五城村嘉良原	親ヶ原	2,400	2,400	2,400	石立利道
	宮野原市並原	普天原野原入口	800	800	800	7x7.6L.コケレ-1車線
	コザ市島袋	712ム	550	550	550	簡易倉庫
	読谷村大湾地内		1,500	1,500	1,500	7x7.6L.コケレ-1車線
	読谷村大湾地内		650	650	650	"
	読谷村惣切地内		1,300	1,300	1,300	"
	読谷村港川地内		900	900	900	"
	"	読谷村地内	700	700	700	"

注 ① 24号線と7号線は、聖道線の性質が異なる

② 2号線(主として聖道線)には、括弧中の数字が適用

第 2 表 軍道ノ私有地面積

(単位 m²)

市町村名	面 積	所有路線番号	市町村名	面 積	所有路線番号
合 計	3,005,823		石川市	112,169	13,65線
津浜村	133,977	1号線	那覇市	41,888	1,33線
宜野湾市	220,490	1,30,5,34線	" (旧宜野)	6,423	7号線
北中城村	196,934	13,30,5,122線	" (旧宜野)	92,866	44,15線
北谷村	161,323	1,20号線	豊原村	37,000	7号線
嘉手苺村	48,423	1,16号線	糸満町	20,701	"
読谷村	21,342	1号線	南原村	22,860	7,13線
"	21,339	16号線	"	66,367	44,55線
西原村	49,180	13号線	手取原村	109,302	44,137線
中城村	109,356	"	佐敷村	58,440	44,137線
ゴザ市	119,144	5,12,24,137線	五城村	18,383	137線
美里村	176,704	13,16,24号線	豊原村	267,759	1,6,5線
奥志村	2,225	24号線	金武村	176,876	13,104線
"	190,757	16,13,83線	宜野湾市	115,478	13号線
読連村	70,205	8号線	糸苺町	132,050	1号線
手取原村	27,666	"	久志村	178,384	13号線

注 ① 本表は才表の主要幹線に属するものを示す。